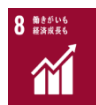


2020年10月19日

地方創生



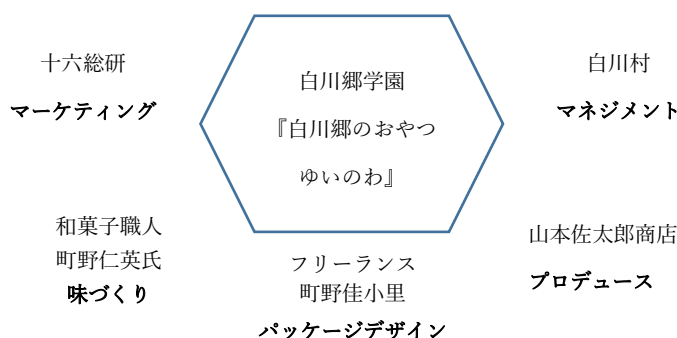
白川郷のおやつ「ゆいのわ」開発事業に関するお知らせ

十六銀行グループが開発に協力させていただき、白川郷学園の生徒たちが1年かけて作成した、白川郷でしか買えないおやつ「ゆいのわ」が、白川村のふるさと納税の返礼品に出品されることとなりました。

つきましては、白川村の発表を下記のとおりお知らせします。

記

白川村（岐阜県白川村、村長：成原 茂）では、白川村第2次総合戦略に掲げられる「第六次産業化と白川郷ブランドづくりによる生産・加工部門の活性化」を強力に進めるため、役場と十六銀行グループのシンクタンクである十六総合研究所がタッグを組み、合名会社山本佐太郎商店（岐阜市）の山本慎一郎氏と和菓子職人の町野仁英氏等の協力のもと白川郷学園の8年生の子たちと共に一年をかけて『白川郷のおやつ ゆいのわ』を開発しました。この度、その『ゆいのわ』がふるさと納税の返礼品として出品されることとなりました。



□ふるさとへの想いがつまった菓子開発

『ゆいのわ』は白川村の米粉を原材料の一部に使った米粉の生地を薄く焼き、わっか状に巻いて蜜がらめしたサクサク食感のお菓子です。味は、飛騨産えごまとこうじ味噌を使った「えごまみそ」、香り豊かでほろ苦い「抹茶」、生しょうがをピリッときかせた「生姜」の3種類。グルテンフリー、添加物不使用にこだわりました。

開発にあたり、生徒一人ひとりの得意分野を生かしながら、味づくり、ネーミング、パッケージデザイン、テストマーケティング、プレゼンテーションなど、企業の商品開発と同様に一つずつ丁寧に進めてきました。子どもたちの熱意、行動力を見守ってきた村民からの温かい応援も受けながら、無事に『ゆいのわ』が完成しました。

□コロナ禍の中、ふるさと納税で全国へお届け

『ゆいのわ』開発当初に掲げたテーマは、「白川郷から世界に発信するおやつ=白川郷のみんなに愛されるおやつ」。年間215万人以上の観光客を通して世界に発信するお菓子を作ること、そのために村民に愛されるお菓子になることを目標に開発を進めてきました。ところが、発売を予定していた今年3月頃から新型コロナウイルスの感染拡大により白川村を訪れる観光客が激減。一時期は世界遺産地区内の原則閉鎖もあり、買いに行きたくても買いに行けない状況が続きました。しかし、実際村に訪れ、『ゆいのわ』を食べられた方々は皆さま「とても美味しい」と満足して帰っていかれました。そんな方々をさらに増やしたいと考え、この度ふるさと納税を活用

し、『ゆいのわ』を全国の寄附者の方々へ発信することとなりました。白川村でしか買えないお菓子という限定感を大事にし、宿泊とセットでの出品といたします。

セットプランにご寄付いただいた方にはまず白川郷でしか買えないおやつ「ゆいのわ」をお送りします。それを食べながら白川郷への思いを膨らませ、来ていただいた際には日本の原風景に佇むお宿で心静かにゆっくりとお過ごしいただき、世界遺産の合掌造り集落、味わい深い郷土料理、霊峰白山に抱かれた天然温泉、農村文化が息づく風土、大自然の中でのアクティビティ体験などを楽しんだ後は、ひだ白川郷のすばらしさを存分に満喫していただけたらと存じます。

白川郷のおやつ



●ゆいのわの特徴

「白川郷のおやつ ゆいのわ」は、米粉の生地を薄く焼き、くるっと巻いたわっか形のお菓子です。小麦を一切使わず、米粉でつくった生地は、素朴な味わいでサクサク軽い食感。ひと口サイズにカットし、こだわり素材で蜜がけしています。白川村産のコシヒカリ米粉を一部に使用、グルテンフリー、添加物不使用です。



抹茶

えごまみそ

生姜

3種詰め合わせ箱

●名前の由来

「ゆい」＝白川郷で受け継がれる助け合いの心『結』

「わ」＝『輪』『和』『話』の3つの意味を込めました

●パッケージデザイン

子どもたちのアイデアをもとに制作。「わ」をテーマにした円を中心に、お菓子の素材である米、白川村の自然や合掌造りの風景を、温かみのあるタッチで描きました。

●寄附

ゆいのわの売上の1%（1袋あたり4円）が白川村に寄附されます。

寄附金は白川村の子どもたちの教育を支援するために使われます。

●取扱店

岐阜県白川村内の土産物店、商店、宿泊施設

□セット型返礼品の一例

白川郷のおやつゆいのわ付き お菓子
世界遺産 白川郷 合掌造り 孫右エ門
1泊2食付き 宿泊券 ペアチケット



寄付金額 100,000 円

白川郷のおやつゆいのわ付き お菓子
藤助の湯 ふじや 大白川の大自然満喫プラン
1泊2食付き 温泉 源泉100% 2名様分 ペアチケット



寄付金額 159,000 円

※その他の参画宿泊先：蕎麦庄やまこし、城山館、四季かつら、トヨタ白川郷自然学校

※セットプラン点数：全17品※いずれも10月17日現在

【白川村長 成原茂 よりコメント】



白川村の人口は年々減少しており、平成27年(2015)4月現在に居た1,695人の人口が平成31年(2019)4月には1,589人にまで減り、5年間で約100人の減少となりました。この状況を打開するべく今年度第二次総合戦略を打ち出し、人口減少に歯止めをかけることを村の最重要課題として位置づけ、「人口維持以上を目指し、持続可能な村をつくる」ことを基本目標に掲げました。本戦略策定後は、移住定住対策の強化、6次産業化による村の経済循環の改善、観光資源の多極化を実施するとともに、子育てのしやすい環境の向上等、全村民が安心して暮らせることを目指し、総合戦略の中で目標としている人口ビジョンの将来展望達成に向け努力しています。その一環として今回「白川郷のおやつ ゆいのわ」をふるさと納税に出品することといたしました。また、これを機に今後白川産の豚や白川産の米「白川郷こしひかり」等もふるさと納税に出品予定です。これらの取組が、村の第6次産業の活性化につながり、ゆくゆくは人口減少の歯止めになることを強く期待しています。

新型コロナウイルスの影響もあり、中々前を向けない状態が続いていますが、是非寄付者の方々には「ゆいのわ」を食べて白川村への思いを膨らませて頂き、お越しの際には白川郷ならではの自然の中で至福のひと時を過ごしていただけたらと思います。

【白川郷学園 9年生 高島 弥呼さんよりコメント】



2019年4月、私たちは担任の先生から「白川郷の特産品を作るぞ!」と言われました。

私たちにとっては何もかもが初めてのことでまずは白川郷の観光の現状について学ばなくてははいけませんでした。その後私たちは味チーム、プロモーションチーム、マーケティングチーム、パッケージチームの4つのチームに分かれ、それぞれの視点から、ゆいのわ製作を進めました。

初めはプロの方々の勢いに圧倒され、ついていけない場面もあり自分たちが製作しているという実感を感じられない時もありました。そんな中いかにこの商品をもっと知ってもらうかをまずは大切にし、ゆいのわの看板やのぼりを自作したり、会計の練習をしたりしました。そんな中で次第に学級でも絆が生まれ、ゆいのわ活動に自信を持ち始めました。その後、試験販売を2回行い、合計2,000袋完売することができました。初めこそ頼ってばかりのゆいのわ活動でしたが、今は9年生15人全員がゆいのわに誇りをもっています。

私たちは今、村民学の授業(一般的にいう総合)でSDGsについて学んでおり、昨年行ったゆいのわの活動をSDGsの視点から振り返ることもできました。今後も新しいことを学んだ際には「ゆいのわにはどのように生かせるか」という視点で考えを巡らせることで。これから白川村に貢献できると思います。

そして今回、その一つとして「ふるさと納税」があります。私たちのゆいのわがこのような形で白川村に貢献し、全国に広まることでできて幸せです。これからもっともっと私たちの思いが詰まったゆいのわを世界中の人が愛してほしいです。

〈本件に関するお問い合わせ〉

岐阜県白川村 観光振興課 産業振興係

T e l : 05769-6-1311 F a x : 05769-6-2016 Email : kankou-sangyoushinkou@vill.shirakawa.lg.jp

株式会社十六総合研究所 田代達生

Tel: 080-4544-1166 E-mai : 16soukenhida@gmail.com